

令和3年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立諸富北小学校

5月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童（生徒）の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童（生徒）一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童（生徒）の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和3年5月27日(木)

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数・数学)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

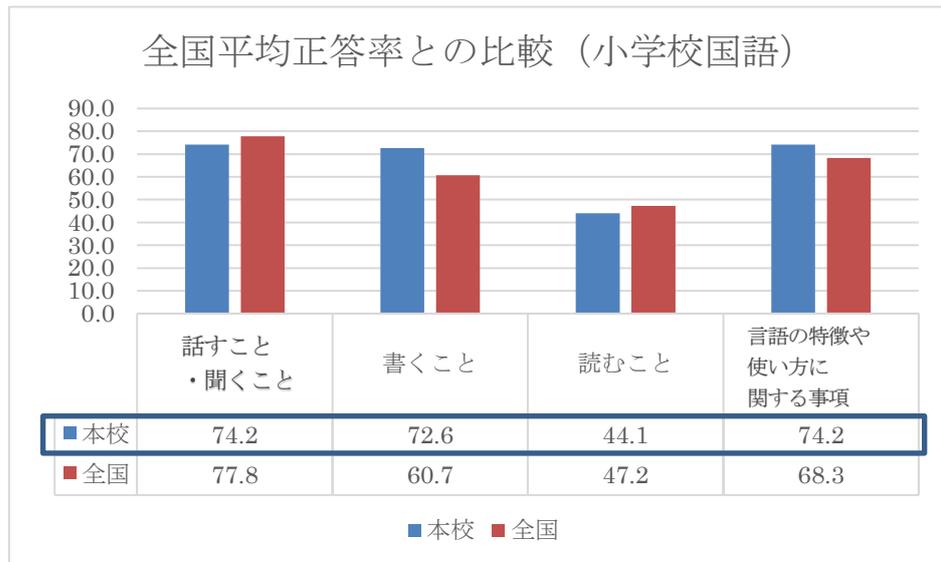
児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査 (例) 国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご欄ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語



(1) 結果

4領域のうちの2領域、「書くこと」は11.9ポイント、「言葉の特徴や使い方にに関する事項」は5.9ポイント、全国平均正答率をそれぞれ上回りました。一方で、「話すこと・聞くこと」、「読むこと」の2領域では全国平均正答率を3ポイントほど下回りました。また、無解答率については、多くの問題で全国平均よりも低くなっており、児童が最後まで粘り強く取り組もうとする姿勢が見られました。

(2) 成果と課題

今回の調査で、「書くこと」が11.9ポイント、「言葉の特徴や使い方にに関する事項」が5.9ポイント上回りました。「書くこと」については、普段の授業での活動や宿題で書く機会を増やし、書き慣れてきたことが効果として表れていると思います。また、言葉については、国語科の内容の根幹をなす力であり、普段から漢字や言葉の学習、音読、視写、楽しみながら言葉に触れる掲示物やプリントなどの取り組みの成果が表れていると考えられます。

課題は、内容領域の「話すこと・聞くこと」、「読むこと」の正答率を上げることです。どちらも約3ポイント全国平均より下回っていました。文章や絵図からどんなことを問われているのか、問題の意図を読み取りだけでなく、それにこたえることを苦手としている児童がいます。児童の読解力を高めることが、この2つの内容領域はもちろん、それ以外の「書くこと」、「言葉の特徴や使い方にに関する事項」の力を伸ばすことにもつながると考えます。今は、「思考力・判断力・表現力」を問われる問題が増えているので、普段の授業改善をしていくことが重要であると捉えています。

(3) 今後の学力向上のための取り組み

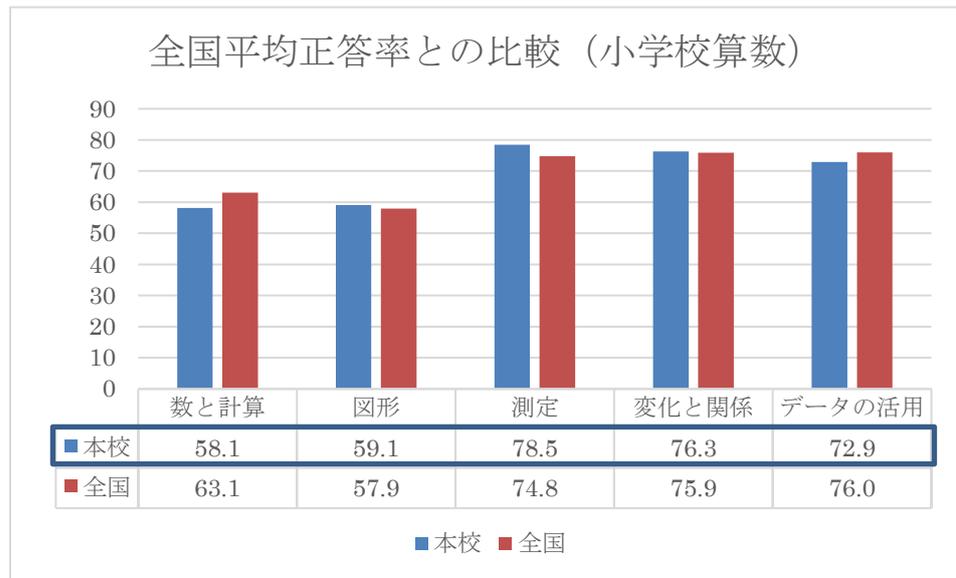
【学校では…】

- 子どもが主体的に学べるように、授業の在り方を工夫します。主体的に、対話的で深い学びを実現するために、子供同士が話し合ったり、考えを比較したりしながら学んでいけるようにします。
- どの教科でも目的や内容に応じて、自分の考え、理由、ふり返り等、書く機会を増やします。
- 漢字学習では単に覚えるだけでなく、それらを話す、書く、読む際に使える力の習得を目指します。また、語彙を増やすため、辞書の活用、掲示物、読書活動に力を入れます。
- インタビューや新聞書き、パンフレットやリーフレット作りなど、日常生活につながる言語活動を授業で設定し、習得した力を活用する場面を増やして表現力の向上を図ります。

【ご家庭では…】

- 音読を大切に。しっかりはっきり声に出して読むことで、文の構成、内容、言葉の意味を理解することにつながります。文章を読んで、その内容や意図を正確に捉えることは、読解力の向上につながります。そして、読解力は全ての教科の礎となるものです。音読にしっかり取り組みましょう。
- 読書を大切に。手に取りやすい「まんが○○」もいいですが、物語・科学・歴史・芸術・絵本…など、色々な種類の本を読み、多様な表現や言葉に触れることで、語彙力を高め、知識の幅を広げましょう。保護者の方と一緒に読書をして、読書習慣を付けることもおすすめです。

2 算数



(1) 結果

ほぼ全国平均と同等の結果でした。その中で、「図形」は1.2ポイント、「測定」は3.7ポイント、「変化と関係」は0.4ポイントと、3領域で全国平均を上回っていました。また、無解答率については、多くの問題で全国平均よりも低くなっており、児童が自分なりの考えをもち、それを表そうとする意欲が見られました。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「図形」、「測定」、「変化と関係」の3領域では全国平均正答率を上回っていました。一方で、「数と計算」では5ポイント、「データの活用」では3.1ポイント全国平均正答率を下回っていました。観点別に言うと、「思考・判断・表現」に関する問題では、全国平均正答率と同等でした。考えて答えを書くということがこれまでの授業などの取り組みで効果が出ていると思います。一方で、「知識・技能」に関する問題では、全国平均正答率74.1に対し、本校は69.5と4.6ポイント下回っています。2(1)の直角三角形を求める問題や1(3)速さを求める問題、4(2)4(3)整数÷整数=小数となる文章題など、基本的な公式を活用した問題での間違いが多いと分かりました。問題形式の「記述式」は全国平均を上回り、「短答式」は下回っていることからこの領域は課題だと考えます。

確かな知識・技能、計算力を身につけるために、普段の授業や宿題等で四則計算や公式活用などの練習を行い、それらを正しく理解し、問題の中で使えるための工夫が必要だと考え実践していきます。また、継続して自分の考えを説明したり書いたり見直したりする力を付けることが重要だと考えます。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では…】

- 児童が主体的に学びに向かうような**授業づくり**を行います。その中で問題文を正しく読み取って式を作ったり、絵や図などで表したりして、しっかりと**自分の考え、解き方を相手に伝える**ことができる力を身に付けさせていきます。その機会を多く設け、論理的に書く**記述力の向上**に努めます。
- 2～6年生で学習内容に応じて**TT・少人数指導**を効果的に行い、分かりやすい授業、細やかな指導を行います。また、個々のつまづきや苦手を早期に見つけ、**補充指導**に努めます。

【ご家庭では…】

- 児童が取り組んでいるプリントや計算ドリル、ワーク等の宿題の様子やテストを通して児童のがんばりを見ていただき、**励ましや称賛の言葉**、必要に応じて**アドバイス**等をお願いします。
- 算数の学習内容は、教科の中でも特に各学年の学習内容のつながりが意識しやすい教科です。その学年で苦手としていることは、前学年までの内容と大きく関わっています。学校での授業、学習、宿題はもちろん確実に取り組み、できればそれに加えて**家庭学習（自主学習）**として、前学年までの学習を復習的に取り組むことも大切です。百マス計算などに取り組むのもおすすめです。

4 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果 《生活習慣・挑戦心・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	80.6 %	85.8 %
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	35.5 %	38.3 %
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	48.4 %	55.0 %
自分にはよいところがあると思いますか。	35.5 %	36.2 %
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。	16.1 %	24.4 %
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	64.5 %	75.4 %
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	80.6 %	84.1 %

朝食・起床・就寝については全国平均を下回っていて、規則正しい生活リズムの定着に課題が見られます。「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを大切にしていくことは、学習面、生活面、体調管理にとっても重要です。児童自身にその大切さを伝えていながら、家庭と学校が協力して、習慣化していきましょう。挑戦心や規範意識の項目については、肯定的な回答をした児童は全国平均よりも低い結果が出ています。児童のやる気や自己肯定感を高めていく必要があります。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。	41.9 %	31.2 %
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。①「3時間以上」	6.5 %	11.6 %
②「2時間以上、3時間より少ない」	22.6 %	15.3 %
③「1時間以上、2時間より少ない」	32.3 %	35.6 %
④「30分以上、1時間より少ない」	29.0 %	24.5 %
⑤「30分より少ない」	9.7 %	9.5 %
⑥「全くしない」	0.0 %	3.5 %
新型コロナウイルス感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか。	32.3 %	29.8 %

家庭学習については全国平均とほぼ同等か。それを上回っており、学習についてはこれまでの取り組みの成果で習慣化できているようです。一方で、中学校に入学する前の段階で学習時間「30分未満」の児童が1割近くいるなど、同学年の中で大きな個人差が見られることが心配です。家庭学習の手引きをもとに家庭学習の意味、大切さを児童、保護者に伝え、今後も継続して家庭学習が充実するように指導を続けていきます。新型コロナウイルス感染症拡大による児童の心の問題も、大切な課題であり、今後もそのケアと同時に感染対策をしっかり指導し、続けてきたいと思います。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では…】

- 学校からは、学年に応じた質と量の宿題を出しています。自主学習（自学）についても下学年から適宜取り組ませ、手本となる内容を掲示するなど工夫しています。
- ボランティアで毎朝のあいさつ運動、週に2回のたてわり掃除などを行い、児童どうしのつながりや規範意識を高め、お互いがんばりや良さを認め合えるような雰囲気づくりを行っています。
- 毎月1回「ノーテレビ・ゲーム・スマホデー」を行い、規則正しい生活を意識させます。また、年に3回の諸富中学校区共通で「家庭学習強化週間」を行い、自身の学習習慣をふり返らせ、普段に生かします。

【ご家庭では…】

- 生活面については、家庭での声かけや意識づけがとても有効です。めりはりのある規則正しい生活と家庭学習の定着することは、極めて大切です。学習面でも生活面でもスポーツなどでも、子どもたちが自分から取り組めた時、やってみた時、できた時、少しでも向上した時は、ぜひ子どもたちの顔を見て、褒めて認めてあげましょう。そうすることで子どもたちの意識が高まり、また、不安な気持ちなどはやわらいでいくと思います。気になったことは、学校にもご相談ください。